



2

1 作業療法士による療育の様子。この日は色風船を膨らませたりつづいたりしてみんなで運動 2 サポートセンター空の合言葉は「あなたと、笑顔に。」。子どもと親が笑顔になれる場所を目指しています 3 楽器を使った音楽療法士の療育の様子。サポートセンター空では、日々の療育の様子をブログ「空もよう」で紹介しています



3



1

子どももたちが 発揮できるように

児童発達支援施設では、※療育を通じて子どもたちの成長を支援しています。
今回は、市内3施設で子どもたちへの支援を行う「サポートセンター空」に話を伺いました。
※療育：医療や訓練、教育、福祉などを通じて、障害があっても社会に適応し、自立できるように育成すること。



NPO法人
障害児・者トータルサポートセンター空
おおたけ まさひこ
大武 仁彦 理事長

キーワードは「笑顔」

サポートセンター空では、作業療法士や言語聴覚士、音楽療法士などの専門スタッフと共に、子どもたちの少し先の将来を考えて療育を行っています。目の前の気になることやできないことを解決するのはもちろんですが、子どもたちの場合は卒業の次は就学など、必ず次のステージが待っているのです。それを見据えて療育計画を立てています。本番は学校を卒業してからだと思っただけで、そこで子どもたちが何かにチャレンジするとき力を発揮できるようにサポートしています。

例えば、施設では避難訓練を実施、

しているのですが、保護者から「地震のときに、自分から机の下に隠れたのを見て感動した」と話を聞いて、私たちもすこうれしかったのを覚えています。他にも、「レストランに行ったときにずっと座って食べてくれた」、「公園に行ったら初めて自分から手をつないでくれた」など、さまざまなエピソードも聞いています。正しいサポートをすれば、子どもたちは日常生活の中でもきちんと実践できると実感しました。

私たちは子どもたちへの支援を行う中で、「笑顔」を大切にしています。施設の利用を開始するときは、言葉を話すことが少なく、周りや仲良くするのが苦手だった子どもも、適切、

な療育を続けることで、今では音楽療育の中で、周りの友達と一緒に楽しく、元気に楽器を演奏しています。

また、子どもたちに「楽しく来て、楽しく帰ってもらおう」とも重要ですが、併せて、大変な子育ての中で保護者にも笑ってもらえるような「安心できる場の提供」もしたいと思っています。

まずは大人が勇気を出して

子どものことで悩んでいる皆さんに一番伝えたいのは、「あなたは独りぼっちじゃない」ということ。今までの経験で言うと、子どものこと

で悩んでいるお母さんが孤立している場面が多いと感じられます。当施設では、「親子通園」を通じて親子の信頼関係を築いたり、同じ悩みを抱えた保護者同士の交流や保護者自身の心のケアを行ったりしています。

地域には当施設も含めて、温かい支援をしている施設や団体がたくさんあります。近くには同じ悩みを持つている人もいます。そして、その人の助けになる存在が必ず見つかるはず。独りで抱え込まないで、まずは大人が勇気を出して、市の子ども・子育て総合センター（5ページ参照）に相談するところから始めてみてください。

子どもと一緒に成長できた

サポートセンター空の利用者
やいた まゆみ
矢板 真由美 さん



言葉の発達が遅いことやご飯を食べるのが苦手なことが気になり、1年半前に施設を利用することになりました。当時は子どもが無表情なこともあり、とても大きな不安があったのを覚えています。しかし、施設を利用して少したつと、子どもの表情が豊かになり、笑ったり泣いたり感情が出せるようになりました。今では私に変顔もしてくれます。

何より、施設を利用して私自身が救われました。以前は周りの子どもと比べてしまうことも多く、不安を抱える毎日でした。今では、子どもの苦手なことも「個性」と考えられるようになり、同じ悩みを持つママ友もできたので、心から子育てを楽しんでいます。子どもと一緒に成長できているのが、うれしいですね。